

OUMON CRUISE 2024

出航
5/11
14:00

桜門クルーズ 2024

—清洲の下町情緒と CAFE まちクルーズ—

桜門クルーズでは、関東大震災、東京大空襲と2度の大きな大火に見舞われた清洲白河に焦点をあてました。現在の清澄白河は、昔のままの風情を残す下町情緒と、最新スタイルのカフェが軒を連ねる新しさが共存するまちになっています。

今回のルートは、日本橋川から墨田川に入り、隅田川の名橋清洲橋を眺め、小名木川では、新小名木川水門をくぐり、横十間川のルートでスカイツリーを目指します。

クルージング修了後は浅草界隈でOB・OGと学生の懇親会の企画しています。是非ご乗船をお待ちしております。

日 時	5月11日(土)13:30 ~ 16:00
集合場所	日本橋船着場集合 13:30 出航 14:00
経 路	日本橋⇒日本橋川⇒墨田川⇒小名木川⇒横十間川⇒おしなり公園船着き場
参加費	一般 5,000 円, 学生 1,000 円 懇親会一般 2,000 円相当, 学生無料
懇親会	クルージング後、浅草界隈で懇親会の予定
主催	桜門技術士会
協力	オリエンタル白石(株)
後援	日本大学理工学部土木工学科
申込み	http://www.oumon.com/ 催しものお知らせから
問合せ先	桜門技術士会 〒101-8303 東京都千代田区神田駿河台 1-6



清洲の下町情緒と CAFE まちクルーズ

清澄白河は、昔のままの風情を残す「清澄庭園」などの下町情緒と、最新スタイルのカフェが軒を連ねる新しさが共存する街。「木場公園」にある「東京都現代美術館」をはじめ、アートギャラリーの数の多さも東京屈指です。清澄白河の名の由来は「清澄」と「白河」、隣接する2つの町名にちなんだものです。

清澄は、寛永6年(1629年)頃、干潟だった一帯を開拓した弥兵衛という人物が治める「弥兵衛町」と呼ばれていました。やがて、元禄8年(1695年)の検地の際に、地形が安房国の清済(清澄)に似ていることから、清住町と改められます。白河は、白河楽翁(白河藩主・松平定信)にちなんでつけられた町名です。のちに、深川東大工町、霊巖町、元加賀町、扇橋町の各一部を合わせて、白河町が誕生しました。

今回のルートは、日本橋船着場から江戸橋、靚橋、茅場橋、湊橋、豊海橋を経て、右手に永代橋を眺め、左へ折れ墨田川へ入ります。墨田川では、墨田川大橋、清州橋を眺め、小名木川へ入ります。小名木川では、万年橋、新小名木川水門をくぐり、都営大江戸線高橋、西深川橋、東深川橋、大富橋、新高橋、新扇橋、扇橋閘門、小松橋、小名木川橋、小名木クローバー橋を左折し、横十間川へ入り北へ向います。横十間川に入ると、大島橋、本村橋、清水橋、首都高7号線小松川線をくぐり、旅所橋、松代橋、総武線鉄道橋、錦糸橋、都道315号線橋、栗原橋、神明橋、柳島橋、左に折れ、十間橋、西十間橋、京成橋、おしなり公園船着場へ到着します。下船するとm目の前には、東京スカイツリーが出迎えてくれます。

関東大震災の被災

1923(大正12)年の「関東大震災」では、深川区は区域の85%、世帯の92.7%を焼失する大きな被害を受けました。のちに城東区となる亀戸町・大島町・砂町では火災の出火はなかったが、深川区・本所区に隣接する地区で、延焼による被害を受けました。それぞれの焼失区域は、亀戸町が24%、大島町が18%、砂町が29%でした。倒壊した家屋は3町で全壊450戸、半壊538戸を数えた(各数値は1926(大正15)年刊の『大正震災誌』による)。地図は『大正震災写真集』に掲載された『東京市附近火災地域及罹災民集団地要図』の一部、現在の江東区部分で、当時の区名・町名、界線を追記している。赤い線で囲まれた部分が火災地域となります。

東京大空襲での延焼

深川区・城東区(現・江東区)は、「東京大空襲」で区内のほぼ全域が焼失し、3万人以上の死者が出るという大きな被害がありました。図は「東京大空襲」など戦災での焼失区域を示した『戦災焼失区域表示 帝都近傍図』の江東区区域部分です。1947(昭和22)年発行の版で、同年、深川区と城東区が合併し江東区が誕生しており、この地図にも江東区と記載されています。黄色い着色が焼失区域、緑色の部分が建物疎開区域となります。

ルート以外の資料：三井住友トラスト不動産HPより引用



図-1 OUMON CRUISE 2024のルート



図-2 「関東大震災」の被害 1924(大正13)年発行

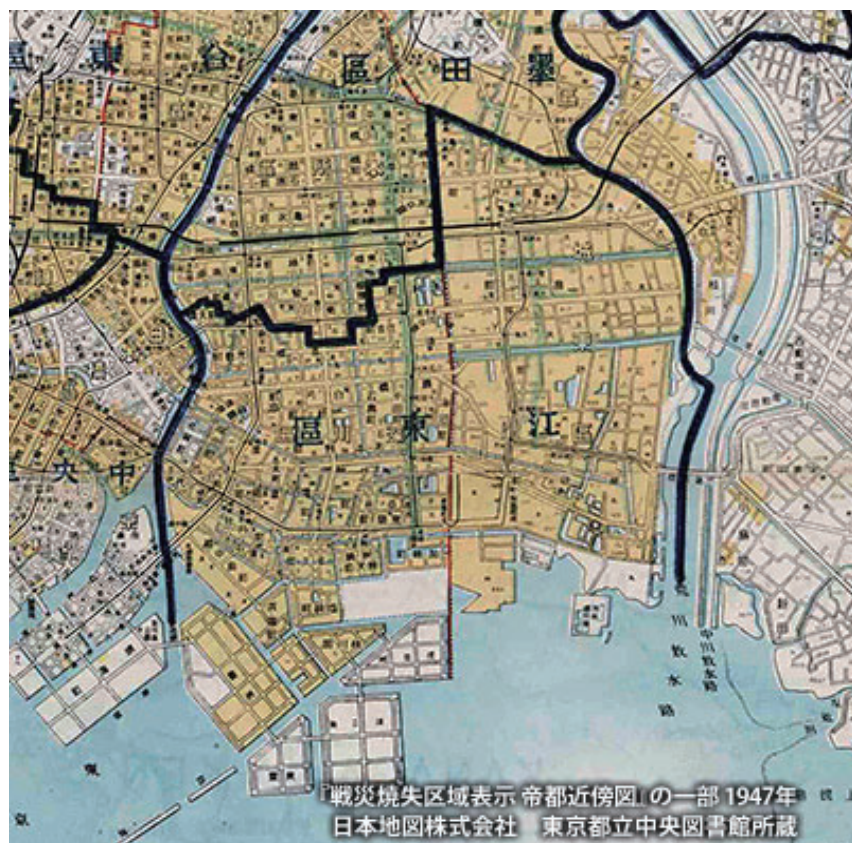


図-3 「東京大空襲」で大きな被害を受けた深川区・城東区
<https://smtrc.jp/town-archives/city/fukagawa/p07.html>